※令和３年度以前入学生用

学校番号	T1202

令和５年度　　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ（通信）	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「新編 古典Ｂ」　（大修館書店）						
副教材等	プリント教材						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この授業では、さまざまな古典作品を読むことを通して、昔の人々の価値観や思いにふれ、自分自身のものの見方や考え方、感じ方を豊かにすることをめざします。
・古典を楽しみ、古典に親しむことを第一としますので、文法学習に重点を置くことはありません。
・4 単位の通信制科目ですので、スクーリングの出席と取り組み状況に加え、年間１２回のレポートの提出状況によって成績をつけます。レポートは期限までに必ず提出してください。

２　学習の到達目標

・古典を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方にふれ、自分の考えを広げ、深める。
・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。
・生涯にわたって古典に親しむ態度を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。			まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察（授業態度・発言） ・提出物の点検（ノート・プリント・レポート）			・提出物（ノート・プリント ・定期考査	・小テスト ・提出物（ノート・プリント・レポート） ・定期考査

※令和３年度以前入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期(中間考査)	説話	古文に親しむ 『竹取物語』 ～かぐや姫の昇天～ (1回～4回)	○			○	○	a:『竹取物語』や物語文学について関心をもち、理解を深めようとしている。 d:登場人物の心理を押えながら歴史的仮名遣いに注意しておおむね音読できている。 d:冒頭の部分を読み、内容の概略を理解している。 e:『竹取物語』の文学史的な位置づけについて理解を深めている。また、場面に応じた重要語を理解している。	・行動の観察 (授業中の態度や発言) ・感想文 ・提出物(ノート・課題) ・レポート ・小テスト ・定期考査(2回)
	日記	都への思い 『土佐日記』 ～門出～ (5回～7回)	○			○	○	a:日記を読み、作者の置かれた状況や心情を読み取る。 d:語句や文法に注意して本文を現代語訳している。 d: 当時の旅の様子を読み取り、旅についての理解を深めている。 e:教科書の旅程図などを参考に、旅の経路や日程を理解している。	
前期(期末考査)	和歌	『百人一首』 (8回)	○				○	a:『百人一首』への関心を高め、韻文を味わい親しもうとしている。 d: それぞれの和歌の内容を大まかに把握している。 e:和歌のリズムと内容に注意し、繰り返し音読・朗読している。	
	説話	『宇治拾遺物語』 ～十二の「子」文字～ (9回～10回)	○			○	○	a:言葉遊びのおもしろさを味わっている。 d:会話の主を読み取り、整理している。 d:小野篁と嵯峨天皇の性格や関係を読み取り、人物像を把握している。 e:場面に応じた重要語や基本語について理解している。	
	漢文	『漁夫之利』 ～漢文を読む～ (11回)	○			○	○	a:故事成語の叙述のおもしろさを読み取ろうとしている。 d: 故事成語がもとの話からどのように生まれ、使われるようになったかを読み取っている。 e: 漢文訓読のきまりや基本的な句法への理解を深めている。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　d:読む能力　　e:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。